

日中映画論



[日中映画論 下载链接1](#)

著者:倪震

出版者:作品社

出版时间:2008

装帧:

isbn:9784861822124

大島渚、謝飛（シェ・フェイ）、北野武、張芸謀（チャン・イーモウ）、塙本晋也、賈樟柯（ジャ・ジャンクー）。日本で最も多作な映画批評家と、中国第五世代以降最良の伴奏者が、双方の映画監督たち三人ずつを論じ合い、両国の映画の歴史と現在を探訪する。まだ見ぬ中国、そしてまだ見ぬ日本の発見と展開！

【内容目次】

わたしはいかにして映画マニアとなり、次に映画研究者となったか。（四方田）

映画研究がわが人生の転機となった（倪）

- ・大島渚論 性と政治の融合と分離（倪）／日の丸とペニス（四方田）
- ・謝飛論 生めよ増やせよ（四方田）／ソフトな東方的情緒の展示（倪）
- ・北野武論 天使と悪魔の子（倪）／道化とその後（四方田）
- ・張芸謀論 父殺しに至るまで（四方田）／仮面の裏側（倪）
- ・塚本晋也論 異生物とサイコホラー（倪）／恐怖という情熱（四方田）
- ・賈樟柯論 雜音とアイロニー（四方田）／田舎町への永遠の思い（倪）

映画批評をめぐる対談（四方田×倪）

倪震から四方田への三つの質問

四方田から倪震への三つの質問

人名・作品名索引

あとがき（四方田）

【著者略歴】

四方田犬彦（よもた・いぬひこ）1953年生。明治学院大学教授・映画史家。専攻は映画史・比較文化。著書に『白土三平論』、『見ることの塩』、『パレスチナ・ナウ』（以上作品社）、編著に『吉田喜重の全体像』、『若松孝二 反権力の肖像』、『沖縄映画論』（以上作品社）、またサイード、ダルウィーシュ、パゾリーニの翻訳がある。

倪震（ニイ・チェン）1938年生まれ。北京電影学院美術学科卒。北京電影学院教授を経て、現在は評論家。映画脚本に『紅夢』『独身女性』。著書に『探求的銀幕』、『改革中国電影』、邦訳のある著書に『北京電影学院物語 第五世代映画前史』（全国書籍出版）。

【訳者略歴】

阿部範之（あべ・のりゆき）1973年生まれ。同志社大学言語文化教育研究センター専任講師。一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了。中国映画専攻。論文に、「中国映画史における政治と映像」（『一橋論叢』2004年3月号）、「中国映画『枯木逢春』についての一考察」（『野草』第81号）。

韓燕麗（かん・えんれい／ハン・イエンリー）1973年生まれ。鳥取大学地域学部専任講師。京都大学大学院人間環境学研究科博士課程修了。中国語圏映画専攻。共著書に『男たちの絆、アジア映画 ホモソーシャルな欲望』（平凡社）、『入門・現代ハリウッド映画講義』（人文書院）。

垂水千恵（たるみ・ちえ）1958年生まれ。横浜国立大学留学生センター教授。台湾文学専攻。著書に『台湾の日本語文学』（五柳書院）、『呂赫若研究』（風間書房）。

作者介绍:

目录:

[日中映画論 下载链接1](#)

标签

电影书

电影

日本

中国

评论

读过两篇贾樟柯论 就真的蛮好写的

完全书信体，中日电影的大讨论。那时候还那么年轻吧。

[日中映画論 下载链接1](#)

书评

[日中映画論 下载链接1](#)